

## 6. 取組内容の進捗状況(平成30年度)

【東京外国語大学】



〈東京外国語大学留学促進キャラクター:トビタくん〉

### ■ 共通の成果指標と達成目標

#### 国際化関連

##### ○ 本学からの派遣留学生増への取組

- ・本学の国際戦略に基づき、新たに15の大学と国際学術交流協定(うち、学生交流協定の締結は6大学)を締結したほか、包括協定締結済みの2大学と、新たに学生交流協定を締結した。8の大学と新たに学生交流協定を締結したことにより、今後協定に基づく派遣留学生が15名増加(受入学生も同数)することが見込まれる。
- ・短期海外留学科目の受入先となる大学を中心に、協定校を開拓した結果、前年度より18科目11プログラム増加し、平成30年度は104科目173プログラムを開講した。うち、44か国・地域の119のプログラムに、学部1・2年生を中心に、前年度より74名増となる683名が参加した。

##### ○ 留学生受入増の取組

- ・本年度の外国人留学生は、前年(669名)に比べ、82名増加した。このほか、通年の外国人留学生については、前年(1,021名)に比べ、131名増加するなど効果がみられた。
- ・短期受入(ショートステイサマー／ウィンタープログラム)では、夏冬学期合計で、14か国3地域より94名の参加があり、「多文化交流実践」の授業を履修する本学学部生との交流授業や、本学学部生による日本語授業・研修サポート(夏学期15名、冬学期9名、計24名)を通じ、活発に学生交流を行った。

##### ○ 言語関係の取組

- ・TOEIC公開テスト団体一括受験では1,964名が受験し、卒業までの最低保証の目標として掲げた「TOEIC800点」の達成率は、学部47.9%(前年度40%)であった。
- ・多言語ラウンジの利用が活発化し、春学期のセッション実施回数は計389回(スピーキングセッション210回、CEFR-Jセッション179回)、秋学期は計377回(スピーキングセッション191回、CEFR-Jセッション186回)であった。

##### ○ 教務システムの国際化の取組

- ・英語、英語以外の外国語の外部試験結果が、「TUFUS Record(たふれこ)」と呼ばれる多言語グローバル人材ポートフォリオに登録され、e-LearningシステムであるTUFUS Moodle上で5技能の習得状況についてのレーダーチャートで分かりやすく示されることにより、学生自身による効率的な学習の動機づけとなった。
- ・授業担当教員が諸言語の学習履歴や達成度の確認、留学情報を確実に把握することにより、効果的な学習指導を行うことができた。

### ガバナンス改革関連

##### ○ 事務職員の高度化への取組

- ・従来の段階別に設計された事務職員国際化研修のほか、欧州委員会(EC)が主導するErasmus+プログラムの枠内において、スペインのバスク大学及び、ポーランドのヤギェロン大学でそれぞれ開催された5日間の大学の国際担当者向けトレーニングプログラムに事務職員を1名ずつ派遣した。
- ・本学が提供する一般向けの生涯学習プログラム「TUFUSオープンアカデミー」にてロシア語、中国語、ウルドゥー語の講座を事務職員3名が通年で受講した。
- ・これらにより、職員の英語やその他外国語の実践的な運用能力及び国際業務対応能力が向上し、外国籍の教員の受け入れ体制の整備や、国際学術交流協定締結が順調に進み、教育研究の環境が充実した。

### 教育改革関連

##### ○ 「日本の発信力強化」への対応

- ・全学教養日本カプログラムと国際日本プログラムを充実させたほか、大学院博士後期課程に国際日本専攻を設置するとともに、国際日本学部の設置に向けた準備を進め、本学教育における「日本」に対する教育を強化した。
- ・「国際日本プログラム」は、日本語未修の正規生(留学生)を対象としており、この充実により本学教育の国際化を図るとともに、国際日本学部の設置が実現した。



① ヤンゴン大学(ミャンマー) University of Yangon (Myanmar)	② 淡江大学(台湾) Tamkang University (Taiwan)
③ ロンドン大学SOAS(英国) SOAS, University of London (United Kingdom)	④ 上海国際大学(中国) Shanghai International Studies University (China)
⑤ 韓京外国語大学(韓国) Hankyuk University of Foreign Studies (Korea)	⑥ カイロ大学(エジプト) Cairo University (Egypt)
⑦ サラマンカ大学(スペイン) University of Salamanca (Spain)	⑧ グアナフアト大学(メキシコ) University of Guanajuato (Mexico)
⑨ ベネグランド大学(セルビア) University of Belgrade (Serbia)	⑩ リオデジャネイロ州立大学(ブラジル) Rio de Janeiro State University (Brazil)
⑪ 国際人文科学大学(トルクメニスタン) International University for the Humanities and Development (Turkmenistan)	⑫ ヴィータウス・マグナス大学(リトアニア) Vytautas Magnus University (Lithuania)
⑬ ライデン大学(オランダ) Leiden University (The Netherlands)	⑭ リヴィウ大学(ウクライナ) Ivan Franko National University of Lviv (Ukraine)
⑮ 高等経済学院(ロシア) Higher School of Economics (Russia)	⑯ プレトリア大学(南アフリカ) University of Pretoria (South Africa)
⑰ メルボルン大学(オーストラリア) The University of Melbourne (Australia)	

<Global Japan Office17拠点>

### ■ 大学独自の成果指標と達成目標

##### ○ Global Japan Officeの展開

- ・平成30年度は、新たにプレトリア大学(南アフリカ)とメルボルン大学(オーストラリア)にGlobal Japan Office を設置し、日本語・日本文化の普及と発信活動を開始した。
- ・プレトリア大学(南アフリカ)Global Japan Officeは、本学の現代アフリカ地域研究センターのプレトリア拠点としての機能も併せ持っている。
- ・ヴィータウス・マグナス大学に既設のリトアニアGlobal Japan Officeが、同大学アジア研究センター、東芝国際交流財団との共催で、本学のTUFUS Cinemaにおいて、ドキュメンタリー映画「カウナス スギハラを、日本を想う」を上映した。

・TUFSGローバルコミュニティ会合を、ベネチア、シドニー、メルボルン、パリ、マドリードの5か所で開催した。このうち、パリ会合には、フランスや隣国に留学中の在校生8名、パリなどで活躍する卒業生11名の総勢20名で開催され、世代を超える交流を通し、フランス内での本学ネットワークを更に深化させる会合となった。



<TUFSGローバル・コミュニティ会合(パリ)>

○ 語学力に関するチャレンジ目標達成者

・本学が独自に設定した目標である「TOEIC900点」を達成した者は、学部713人(前年度619人)であった。

■ 大学の特性を踏まえた特徴ある取組

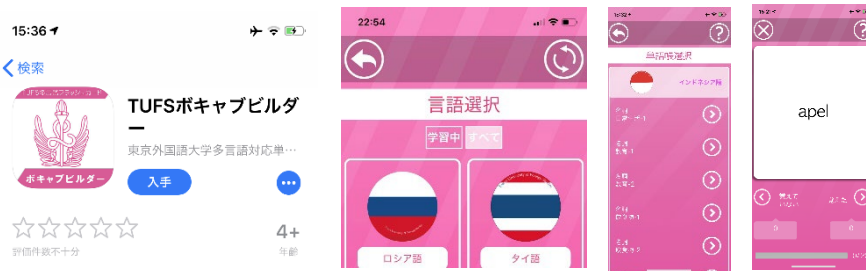
○ 英語以外の外国語のCEFR等の国際基準に基づいた言語能力指標の設定

・本学の専攻言語28言語に関して、昨年度に引き続き、CEFR-Jによる統一基準を共有し、教育用言語材料の構築を進め、CEFR-Jレベル別語彙表に関してはA1レベルが23言語に加え3言語分、A2レベルは21言語分に加え3言語分の整備を進めた。

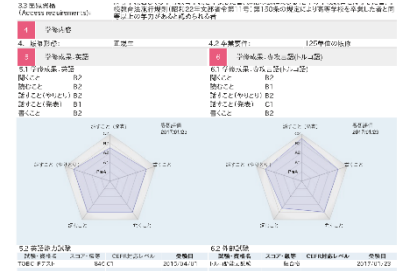
・構築している言語教育資源の利用方法の1つとして、CEFR-J x 27単語学習アプリをiOSとAndroidで利用できるように公開した。現在、23言語でA2レベルまでの語彙の英語をハブとして学べるような設計になっており、秋学期より学部1-3年生(4年生は希望者)、大学院生、教職員にアカウントを発行して利用に供している。

・全学生の言語能力達成度についてCEFR-J評価をとりまとめ、「多言語グローバル人材ポートフォリオ(通称TUFSS Record, たふれこ)」に表示した。さらに今年度は卒業時の言語力を「多言語グローバル人材ディプロマ・サプリメント」の一部としてCEFR-Jレベルで掲載し、卒業生に配布した。

・新たに、CEFRの元資料であるThreshold Level Series とCore Inventoryにある英語表現をもとに多言語翻訳版の作成を行い、23言語分の機能別表現集を完成させた。これは今後の教材作成などの資料として有効活用が期待される。



<単語練習用フラッシュカードアプリ>



<TUFSSディプロマ・サプリメント>

○ TUFSS留学支援共同利用センターの取組

・TUFSS留学支援共同利用センターでは、世界諸地域から日本に留学している学生に対し、コミュニティ支援を実施することを目的とした、本学の学生団体『TUFSS多文化交流コミュニティ』(略称:たふこみゅ)を支援し、国・言語別に17回(昨年度6回)の交流会を実施した。開催にあたっては、近隣大学に日英併記のポスター掲示やホームページでの周知を依頼し、学外からの参加を受け入れるイベントとして行い、電気通信大学の留学生が参加した。

・他大学の国際化支援のため、引き続き他大学の学生からの留学相談を30件以上受け、他大学の教職員からの協定や単位互換に関する問合せに対応した。

○ Joint Education Program実施のための取組

・Joint Education Programをショートビジット型2件、遠隔講義型3件、スタディツアー型2件、タンデム学習型1件、教育実習型2件、教員招聘型1件及び大学院生研究指導型24件計35件の多様なJoint Education Programを実施した。

・共同生活やタンデム学習を通じて、協定校の学生との交流を深めることができただけでなく、学習を支援し合い、日本に対する問いかけに答えることによって、日本語と日本文化について改めて考える機会を学生に提供することができた。

・本学でポーランド語を専攻する学生が、韓国外語語大学校ポーランド学科の授業に参加するプログラムを引き続き行い、この実績を踏まえ、平成31年度は北京外国語大学においても行うこととした。



<教育実習>

■ 自由記述欄

○ 平成31年度に向けて

・平成31年度も、本学が掲げる構想実現に向け、着実に取り組んでまいります。

・本事業について、その成果や社会への影響などを学内外に広報するほか、財政支援終了後も自立しながら継続するよう計画を策定し公表します。

・Global Japan Office(ボアジチ大学(トルコ)へ設置予定)やGlobal Japan Desk(タシュケント東洋国立大学(ウズベキスタン)等へ設置予定)の着実な拡充を進めます。



<ショートビジット(ウズベキスタンサマルカンド経済サービス大学)>